

編集・発行

うじいえ自然に親しむ会

事務局

さくら市ミュージアム

－荒井寛方記念館－内

うじいえ

第17号

平成28年3月15日

自然に親しむ会だより

平成27年度を振り返って、および今後のお願い

会長 加藤 啓三

平成27年度も26年度に続き喜ばしい事がいくつかありました。

まず、国土交通省関東地方整備局（石川雄一局長）より「河川協力団体」の指定（写真）を受けたことです。この指定は鬼怒川上流部では本会が初めてだそうです。今後は国土交通省のホームページに本会行事が掲載される予定です。

次に、社会貢献事業として、蒲須坂明友会（老人会）が昨年の三井住友信託銀行宇都宮支店や氏家ロータリークラブに続いて、シナダレスズメガヤ抜き取り作業に参加してくれました。

また、氏家ロータリークラブより行事に参加した時に着用するようにと、「緑色の帽子とベスト」と「ピックマトック」を寄付していただきました。ありがとうございました。

さくら市教育委員会生涯学習課のボランティアとして、さくら市立氏家中学校3年生10名と栃木県立さくら清修高等学校3年生10名の参加がありました。元気な話し声から私達は若さとパワーをいただきました。

「昆虫の観察と標本作り」に参加した宇都宮市の小学生兄弟は、宇河地区理科展に夏休みの自由研究として「作品」を提出し、見事銀賞と銅賞に輝きました。

最後に28年度の活動では、「ミヤコグサ一株運動」を展開して、ミヤコグサ管理地を充実させたいと願っています。管理地のムカシヨモギ、ヒメジョオン、スギナ、カタバミなどの雑草取りを重点に5月、6月、7月それに9月を設定しました。会員の皆様方のご協力をお願いして、本会のさらなる発展を期待したいと思います。



1株株主 1坪地主になってください

みなさんの記憶にまだ残っているでしょうが、去年9月9日から10日にかけて関東、東北地方はまれに見る豪雨に見舞われました。この豪雨は日光、鹿沼地域などに大きな被害を出したほか鬼怒川の氾濫によって下流の茨城県常総市では住宅の水没や死者がでるなど大きな災厄をもたらしました。

私たちの活動のフィールドである鬼怒川の河川敷も水がのり氏家大橋上流にあるカワラノギク保全地が洗われてしまいました。そこに設置していた看板も基礎部分までむきだしに洗掘されたおされてしまいました。現場への進入路には深い水たまりができ大きな玉石がごろごろあらわれて数日間は近寄ることも出来ない状況でした。被害はこれだけにとどまりません。ゆうゆうパークの一角、私たちの活動の原点であるシルビアシジミの食草ミヤコグサの第一管理地もまた水がのってしまいました。管理地の半分以上が水浸しになり砂におおわれました。現在リーフレットに使っているミヤコグサのあのみごとな姿は望むべくもありません。写真はこの管理地の最盛期の姿です。実は水害に会う前から管理地が年々貧弱な状態になっていることは私たちの間で問題になっていました。

「ここが活動の原点なんですなんてとてもいえない。」「恥ずかしい。」「なんとかしなければ」と。

わたしたちはやりたいことがたくさんあります。でもできることはおのずとかぎりがあります。そんなときに鬼怒川の氾濫です。このさい率直に申し上げます。わたしたちの年間活動はかなりの数になります。でもそれに参加してくれるのはごくごくかぎられた方です。あらためてみなさんの協力をおねがいします。管理地のミヤコグサの1株株主になってください。できることなら1坪地主になってください。もうお分かりと思いますが株主になるのに出資金は必要ありません。せめて年間1日、それもあなたの都合のよい日、やりくりのつく時間で結構です。管理地のミヤコグサの1株株主になってミヤコグサを育ててください。その1株、その1坪を小石で囲んで自分の管理地としてください。その配当はといえば、未来へこの資産をなくすことなく手渡す一役をはたしたかなというささやかな満足感でしょうか。

今年の年間活動表にはミヤコグサ管理地での特別活動日キャンペーンを4回もうけました。くどいようですがこれは一応の目安です。この日でなくてもけっこうです。ぜひあなたのもてる時間をさいてください。そして来年の総会であなたも1株株主、1坪地主としてこの会のありかたについて発言して下さるようお願いいたします。来年の株主総会を楽しみにしています。

第30回県自然保護「奨励賞」を受賞しました

さくら市立押上小学校校長 菅 間 登

県内で自然保護や環境保全に貢献した個人や団体が表彰される「第30回県自然保護功労賞」（読売新聞東京本社、日本野鳥の会栃木主催）において、高校生以下が対象となる「奨励賞」を押上小学校が受賞しました。

押上小学校では、「うじいえ自然に親しむ会」の指導を受けながら、2009年から毎年、高学年の児童が鬼怒川河川敷で、外来植物「シナダレスズメガヤ」の抜き取り作業を続けてきました。

今年は、5年生が総合的な学習時間の環境学習の一環として、11月4日に実施しました。事前の学習として、うじいえ自然に親しむ会の加藤さんに講話をいただき、鬼怒川の自然環境や生態系について学習しました。鬼怒川河川敷の保護区には、希少なチョウ「シルビアシジミ」が生息し、このチョウを保護するためには、餌となる「ミヤコグサ」を増やしていく必要があります。しかし、外来植物の「シナダレスズメガヤ」が増え、「ミヤコグサ」が少なくなっていることを学びました。子どもたちは、事前学習で抜き取り作業の大切さを知り、実際に自分たちがその作業を体験したことで、「自然を守ることは大変だが、みんなが協力してやっていく必要がある。」ということが分かったと思います。

今後も、「うじいえ自然に親しむ会」の指導を受けながら、継続的に抜き取り作業に参加し、地元の自然を学ぶことで、一人一人の環境に対する意識を高めていきたいと思います。

【下記の写真は、11/4の鬼怒川河川敷での作業】



【奨励賞でいただいた賞状と盾】



シナダレスズメガヤの抜き取り作業に協力

蒲須坂明友会会長 芳賀 正治

ある会員から、うじいえ自然に親しむ会の活動を紹介されて、「シナダレスズメガヤ抜き取り作業」に協力しました。鬼怒川の河川敷でこのような植物が生えている事は知りませんでした。シナダレスズメガヤは昔、ダムの法面の土留め用に輸入したと聞いて、「確かに土留め用には適している。」と感じました。細い葉がスーと伸びている姿からは想像もつかない根の強靱さに驚きました。

蒲須坂明友会には91才から70才までの男女33名の会員がいます。作業の参加は自分の体力に応じて自由参加です。今年度の活動は氏家病院西側の河川敷「カワラノギク保全地」で1回、より上流にあるサッカー場西側の「れき河原動植物保全地」で1回、計2回実施しました。

この活動の一つが「下野新聞」で紹介され、さらに「さくら市いきいきクラブだより」にも取り上げていただきました。

さくら市の鬼怒川の河川敷が「れき質河原」として国内に類を見ないほど自然が残されている貴重な所であること。そしてそこにあるカワラノギクやミヤコグサやオキナグサなどの植物を保護して、その植物を餌にしている昆虫などを絶滅から守るためには、「シナダレスズメガヤ抜き取り作業は重要であること」を学びました。

これからも会員の健康保持増進をこころがけ、できるだけ「うじいえ自然に親しむ会の活動」に協力していきたいと考えています。

